

千両トラ葉症の診断と対策

[研究のねらい]

千両の営利栽培は歴史も浅く、また、他の農作物と生育好適環境が異なるため、障害の発生等問題が多いです。ここでは、現地で「トラ葉」と呼ばれている葉脈間黄化症の診断と対策技術を確立します。

[研究の成果]

- ①千両トラ葉症は、リン、カルシウム等によるマンガンの生理活性低下が主な要因と考えられたため、複数元素含量による表1の葉分析診断基準を作成しました。
- ②トラ葉症回避のための土壌のpH及び有効態リン酸の診断基準を表2のとおりとします。pHが高い場合は硫黄粉末の施用によりpHを矯正するとトラ葉症は回復します。

[成果の活用面・留意点]

- ①トラ葉症対策は、マンガン資材の施用より硫黄粉末によるpH矯正の方が効果が高く現れます。

表1 千両葉のトラ葉症診断基準

リン	マンガン	亜鉛	鉄
0.15%以下	350ppm以上	70ppm以上	120ppm以下

表2 千両トラ葉症回避のための土壌診断基準

項目	診断基準	備考
pH	5.5未満	リン酸が基準値より高い場合は5.0未満
有効態リン酸	40mg/100g以下	



写真1 千両トラ葉症



写真2 土壌pHの矯正によるトラ葉症の回復

実施年度：平成2～4年

担当者：岩尾和哉、平田滋